



お椀型の巣をつくる

ツバメ

ツバメ科〈夏鳥〉全長 17cm
 黒い体に赤いのとと、燕尾服のような長い尾が特徴。人家の軒先などに、泥と枯れ草を唾液で固めて、お椀形の巣をつくる。巣立ったヒナはヨシ原などに集まり集団で過ごす。冬は南方に渡り、3月末ごろ毎年ほぼ同じ場所に帰ってくる。



壺型の巣をつくる

イワツバメ

ツバメ科〈夏鳥〉全長 15cm
 ツバメに比べて尾が短く、腰が白い。岸壁や鉄道橋梁、橋桁の下などに集団で営巣する。泥を唾液で固めて、入り口の狭い壺型の巣をつくる。数は少ないが志木でも見られる。



ヒヨドリ

ヒヨドリ科〈留鳥〉全長 28cm
 青灰色で細長い体形。1年中見られるが渡りをする個体も多く、秋には大群で渡ってくるため群れになっていることが多い。巧みな飛翔力と長くちばしで、花蜜や野菜などから昆虫や小鳥のヒナなどいろいろ食べる。



ウグイス

ウグイス科〈留鳥〉
 全長♂ 16cm・♀ 14cm
 「ホーホケキョ」というさえずりはあまりにも有名だが、冬期にも人家の低木などで「チャッ、チャッ」という地鳴きが聞こえることがある。夏期、平林寺(新座市)の林では盛んに鳴いている。